

えりもしやくなげ



発行者 教育長 川上松美 (代)01466-2-2525

<http://www.town.erimo.lg.jp/section/>

[kyouiku/sg6h94000000pqh.html](http://www.town.erimo.lg.jp/section/kyouiku/sg6h94000000pqh.html)

東洋地区と歌別地区の児童が仲良く、スクールバスで登校



【元気に登校する東洋と歌別地区の児童】

○4月21日の朝、えりも小学校に通学している東洋地区の7名と歌別地区の児童の姿を見るため、スクールバスに便乗しました。一番遠い児童は7時34分に油駒から通学していました。その後、南東洋、西東洋、西歌露、歌露と停車し、そのたびに児童は元気よく挨拶して乗り込んでいました。

○歌別地区は児童が18名ですが、歌別入口では7名ほどの児童が一行にきちんと並び、乗り込んでいましたが、立派な光景でした。
○バスの中では、コロナ対策を考えて、各列に一人ずつ座っていました。
○統合前から乗車練習もしていたこともあり、どの児童も通学に慣れた様子でいましたので、ホッとしました。

えりも町教育向上推進委員会が
第1回目の会議を開催
町内の先生方一丸となって『チームえりも』で基礎学力向上に取り組みます

○令和3年4月27日、第1回目のえりも町教育向上推進委員会が役場庁舎委員会室で開かれました。

○本会議には、小中高の代表の先生方が1名出席しました。

○委員長には、えりも小学校の佐藤裕哉校長、事務局長には笛舞小学校の中島主悦教頭が選ばれました。

○8名の先生方と町教育委員会から指導主事の千葉 繁さんが加わり、9名で構成されています。今後の取組に大いに期待しています。

○取組の内容では次の3つを方策として『チームえりも』で進めます。

★ 方策1

・学習規律の徹底（立腰、机上等）

各学校では、これまでも重視して取り組んでいますが、学習に向かう基本的な態度として継続して進めていきます。

★ 方策2

・互いに学び合う授業づくり

（令和3年度重点）

①「わからない」を取り上げ、教師が「ひろい」「つなげ」「もどす」授業

②対話が自然に生まれる環境整備（机の配置等）の工夫

③ICT機器の利点を生かした協働的な学び（ICT推進委員会）

特に、この取組は本年度の重点とする項目で、①は一人一人を見落とすことなく授業を進める視点であり、②は互いに意見を出し合い、自らの考えを広げる教室環境の工夫をめざします。

いずれも、全校、全教職員で徹底して進めようとする授業改善です。

★ 方策3

・家庭学習の充実・習慣化

○委員会のねらいは、町内の課題を共有し、小学校、中学校、高校の先生方が一つになって基礎学力の定着を図ろうとするものです。

○また、この3つの方策は小中高が共通して取り組む学びの土台となるものと考えています。

○学習規律は、学ぶための最低の環境づくりです。とりわけ、立腰は脳の発達にも大きく作用するものと言われています。

○互いに学び合う授業は、学習をとおして「学ぼうとする力（意欲）や学んだ力（知識・技能）、学ぶ力（思考力・判断力・表現力）」を育て、社会構造の変化や感染症・災害をも乗り越えて、たくましく生き抜くための力を育むために進めようとするものです。

防災教育の実践が始まりました～これまでの進め方を発展させ、より津波に備えて考える学習となるよう指導を工夫しています～後半は、えりも小とえりも中と一緒に避難。校区の柏自治会の皆さんも参加

○5月7日、えりも小学校とえりも中学校の合同防災訓練が行われました。

○えりも小学校では、「主体的・対話的で深い学び」となる活動が多く行われました。

○低学年は、『防災かるた』でグループごとになって、2年生が俳句を読み上げ、1年生が札を取って避難の仕方を学びました。



防災かるたに取り組む1・2年生

○3年生は、『避難のしかた』を、校区の地理や避難の方法から学び、その後、アニメの映像を見て津波警報の避難で気を付けなければならないことなどを学びました。

○4年生は、『防災マップづくり』を、大和・本町・新浜地区の地図を見ながら、場面に応じて、どう避難できるか考えました。



【津波のアニメを真剣に聞く3年生】



【地区の防災マップづくりに励む4年生】

○高学年は、『避難所運営ゲーム』をとおして避難時の様々な対応を考えました。



○2時間目は、小学生と中学生が一斉に津波警報が出たことを想定して、裏山の高台に避難しました。柏自治会の皆さんも参加しました。高台の広場では、えりも消防署の寺井史人主幹からの講評がありました。



【柏自治会の皆さんも参加】

○最後に、えりも小学校の佐藤裕哉校長が平成23年の東日本大震災の例を取り上げて、普段から今日のような訓練をすることや心構えの大切さを話しました。来年は一層、「自らが気づき考え行動できる」防災教育の実践となることを期待しています。



裏山に避難したえり小・えり中の児童生徒と柏自治会の皆さん